

平成 24 年度 第2回十和田市行政改革推進懇談会 会議録

日 時 平成 24 年 11 月 26 日（月） 13：30～16：00

場 所 十和田市役所 新館 5 階 第 1 会議室

出席委員 伊藤伸彦委員（会長）、小林博子委員（副会長）、今泉勝博委員、升澤博也委員、
國分隆子委員、小林博子委員、立崎房子委員、三國節夫委員

事 務 局 （企画財政部） 北館部長、伊藤理事
（企画調整課） 横道課長、福島課長補佐、山本課長補佐、沢井主任主査、
中野渡主査、太田主査
（総務課） 田上課長、沖澤課長補佐、森課長補佐
（高齢介護課） 小笠原課長、北館課長補佐、漆館主任看護師

1. 議 題

- (1) 評価の進め方について
- (2) 質疑及び評価
- (3) その他

2. 会議資料

(1) 事務事業担当課からの追加資料

① 総務課

- ・安全、安心メールシステムの目的
- ・経緯
- ・対象
- ・配信カテゴリと主な配信内容
- ・実績 項目ごとの配信、登録者数ほか

② 高齢介護課

- ・湯っこで生き生き交流事業案内
- ・利用申し込み
- ・平成 23 年度実績
- ・参加者の声
- ・当日追加資料・・・財源説明、実施場所・男性参加状況、コース説明、介護保険給
付費・要介護認定者数の実績他

(2) 論点整理表

(3) 十和田市事務事業評価外部評価（事前評価）集計表

(4) 十和田市事務事業評価外部評価表

3. 議 事

(1) 会長あいさつ

(2) 評価の進め方について

評価の進め方について、事務局から説明を行った。また、事前評価表を取りまとめ、作成した論点整理表について説明を行った。質問事項等無し。

(3) 質疑及び評価

担当課から追加資料の説明を行った後、委員と担当課による質疑を行った。その後、委員による外部評価表の記入を行い、その結果を取りまとめ、最も多かった意見を委員会の評価として決定した。

① 安全・安心メール(駒らんメール)配信システムの整備

【質 疑】

- ・導入費用はどれぐらいかかっているのか。
→当初の構築費用として187万円、システムのリース料が5年間で約820万円
- ・八戸市にもあるとのことだが、他市の加入者状況はどうか。
→八戸市は、一般受信者14,410人、特定受信者15,856人 加入率6%程度、
三沢市は、一般受信者4,670人、特定受信者4,764人、加入率11%程度
- ・十和田市の特定受信者は消防関係のみだが、三沢市の特定受信者のジャンルは何か。
→消防関係者とスクールメールが入っている。学校・保護者が入っている。
- ・十和田市の特定受信者に学校関係は入っていないのか。
→システム構築当初、すでに学校独自で緊急メールシステムを導入している所が多かったため、学校関係は加入していない。まだ、緊急メールを導入していないところもあり、今後加入を呼びかけていきたい。
- ・特定受信者が入っている関係だとおもうが、火災発生情報が早く、効果的。特定情報の効果で、加入啓発をしてはどうか。
→消防団員は定員860人となっており、まだ受信登録していない団員もいるので、全て登録してもらうよう呼びかけていきたい。また市職員についても全職員の登録が必要と考えている。
- ・加入登録してもらうためには情報の中身、必要なものを盛り込んでいくことが大事。どういう内容にするかが重要だと思う。
- ・市には市民を守る責任がある。市民を守ろうとするシステムの構築を考えた時、メールと併用して無線の効果も検討してほしい。

- ・メールシステムの運用については民間委託も検討してよいと思う。
- ・加入者数が、たとえば2,000人から、5,000人に増えたとしたらコストは変わるのか。
→受診者数が増えても特にコストは増えることはありません。
- ・情報端末、携帯電話を持っている市民は多いと思うが、持っていない情報過疎の人はどれぐらいいるのか。また、情報過疎の人が困らないようにするための対策はどのようにしているか。
→携帯電話会社で保有者数を公表していないところもあり、推定であるが、およそ市民の85~90パーセントが携帯電話等を保有していると考えられる。携帯電話等のない人には、広報車7台を整備しているので、人海戦術で対応することになる。
- ・しょっちゅうメールが流れるよりは、緊急時以外は時間を決めて流してはどうか。
→受信情報は選べるようになっているので、その辺も受信者が選択して対応してほしい。
- ・お知らせの中には長文もある。一瞬で判読できる発信を心がけてほしい。簡潔で分かりやすいということを定着させ、登録者を通じてPRしてもらってはどうか。そのため、利用者の声を聞くことも必要。
- ・担当者同士が情報交換を行い、上手な発信方法について検討してもよい。

【評価結果】

○事務事業の方向性

有効性を改善して継続

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・市民ニーズにこたえられるシステムづくり、加入促進のPR活動に取り組む。
- ・利用者からの意見のチェック、新規利用者の拡大に取り組む。
- ・登録者増加を図る工夫をすることが重要。配信内容状況や利用者の声を丁寧に紹介し、広報、啓発に努める。
- ・情報の中身を見直し、利用者を増やすべき。
- ・学校(PTA)へ呼びかけ、子どもの安全を一番に考えてほしい。
- ・もう少し考えるべきである。
- ・災害時には関心があると思うが、中央情報で見られると思う。よって市として、市民が必要かどうか、どんな情報を得たいか調査をして、事業を行ってはどうか。

② 介護予防事業 湯っ子で生き生き交流事業

【質 疑】

- ・ 包括支援センターに立ち寄る理由は何か。
→ 1 つは、温泉施設の中で体操ができる広間がないため、支援センターで体操を実施してから移動するコースがあること、2 つ目の理由は、機械を使ったトレーニングや、脳トレーニングを、支援センターで行うため。

- ・ 温泉効果もあり、体操の効果も見込まれ、大変良い事業だと思う。市のホームページによると、介護保険事業に 50 億円程度かかっており、この事業が 3 千万円ぐらいで、何億円も支出を削減するためにも、もっと予算をかけてもよい。利用者はもっと増えそうか。
→ 増えそうです。

- ・ 男性の参加が少ない。男性は寿命が短く、自死も多い。男性の参加率を高めることが必要。具体的に高める取り組みをしてほしい。

- ・ 体操は有効だと思うので、体操だけ参加できたら、自分で行って参加するかもしれない。

- ・ 体操もちろん効果があると思うが、高齢者が外に出て人と話をして交流することがとても重要だと思う。半強制的に男性を引っ張り出すぐらいしてもよいのではないか。

- ・ 事業を知らない人も多い。また、弁当を持っていくことに引かかる男性もあるようだ。
→ 毎回必ず出前を依頼できるようにしている。

- ・ 高齢者向けでない温泉もある。手すりがないとか。そこを市が支援して整備してはどうか。
→ 温泉側の整備を要望していくというより、今おかれている環境の中で、自立していけることを基本に指導している。

- ・ 施設によって参加者が参加しないことはあるのか。
→ 施設によっては 2 階が会場になることがあり、その場合に欠席される方がいたので、コースの変更、温泉の変更などの対応をしている。

- ・ 細かい対応をしている。職員が熟慮しながら取り組んでいることがうかがえる。

- ・ 参加人員の状況はどうか。

→事業参加者は今年度641名。延べ参加者数は1万人以上。

- ・今後もしばらくは高齢化率が高くなっていく。要介護となるのを食い止めることは市民の幸せにつながるし、結果として市の財政にもよい。参加者を増やすため、予算を増やしてもよいと思うが、予算が増えないときはボランティアでの対応が見込まれるのか。

→バスの乗り降りから、風呂場での安全管理まで、責任を持って対応しなければならず、職員での対応を前提としている。参加者を増やすとなれば、現在週13台のバスの借り上げ料、職員のコストなどが増すことになる。

【評価結果】

○事務事業の方向性

有効性、効率性の改善に留意しつつ事業の重点化を図る。

○各委員のコメント（外部評価表より）

- ・軽度認定者率が7.6%から6%へと成果が出ているので、参加者を増やすべきである。
- ・参加実人数が段階的に増えるよう配慮し、参加市民を増やす。
- ・体操や温泉に入るだけでなく高齢者が外に出るという意味でも大変良い事業と思う。
- ・寿命の短い男性の利用者を増やすように工夫する。関係機関とも連携し、事業の内容を利用者がより満足感を得られるように工夫する。
- ・事業への参加者にPRをして、参加者増となった場合、参加者から少しでも負担をしていただいて、希望したら全員が参加出来たらいいと思う。
- ・老人のため考えて行ってもらいたい。
- ・限られた人の参加、予算執行が非効率。

③委員が選定する事務事業評価対象事業について

○事務局より説明

- ・この懇談会で行う3事業の外部評価のうち、1つを委員の皆様から選んでいただくため、先日、委員の皆様から候補対象事業についてご提出をいただいた。全部で17事業が候補として挙げられた。本日は、上位3つの中から1つを委員の皆様のご協議で決定していただきたい。

○各委員のコメント

- ・得票だけを見ると、農産物加工施設整備事業が一番多いが、昨年も農業政策課が外部評価を受けている。いろいろな部署が外部評価を体験して、事務事業を見直す契機としてほしいと思う。

- ・農畜産物の加工施設というのは大事な課題。十和田市は畜産で栄えた町。和牛を出荷すると、首都圏では1~2頭は高く買ってくれるが、あとは安い価格しかつかない。
- ・確かに統計を取ると、生産量は北海道や青森県は高いが、所得は九州の方が高くなる。しかし、その課題は別な場のテーマだと思う。
- ・市役所も広い範囲で体験させた方が、職員のレベルが上がっていくのではないかな。そういうことから地域防犯活動支援事業がよい。
- ・セーフコミュニティを推進している十和田市なので、防犯事業でよい。
- ・では、防犯事業に対して理解を深めるということで、評価対象事業に選定するということがよろしいか。⇒一同「賛成」

○次回事務事業評価事業

「地域防犯活動支援事業」を選定

【事務局より】

本日残る1事業が決定しましたので、前回と同じように、説明資料をお送りしまして、事前評価をお願いしたいと思います。

そして今回と同様に論点を整理しまして、第3回目の懇談会におきまして、外部評価をしていただきたいと思いますと考えております。次回は12月下旬になるかと思っております。お忙しい季節と思いますがよろしくお願いいたします。

以上